

議 長	副議長	局 長	次 長	係 長	係 員



行政視察報告書

令和6年11月1日

笠岡市議会議長 殿

(出張者)議員 桑田 昌哲 ㊟ 議員 大山 盛久 ㊟
 議員 天野 喜一郎 ㊟ 議員 大本 邦光 ㊟
 議員 藤井 義明 ㊟ 議員 真鍋 陽子 ㊟
 議員 守屋 基範 ㊟

下記のとおり行政視察を実施したので、その結果を報告します。

記

【1】 新潟県 新発田市議会

住 所	新潟県新発田市中心部3丁目3番3号
電 話	0254-28-9400
視察案件	中心部における都市計画事業について
期 日	令和6年10月22日(火) 15時30分から17時00分
応 対 者	議会事務局 事務局長 石井昭仁 氏 議会事務局 主事 鈴木奈津実 氏 新発田駅前複合施設 施設長補佐 齋藤優夫 氏 みらい創造課企画政策係 係長 齋藤直樹 氏 地域整備課都市計画係 係長 佐藤憲明 氏 商工振興課商業・まちなか振興係 主任 鈴木博之 氏
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	新発田市役所
概 要	○新発田市議会事務局 石井事務局長 あいさつ ○笠岡市議会 桑田委員長 あいさつ ○中心部における都市計画事業について 新発田市は新潟県北部に位置し、新潟市に隣接する人口約92,000人、面積533.11㎏の中核都市である。 平成7年をピークに人口が減少し、中心市街地においては建築物等の老朽化が進み、郊外型商業施設の立地等に伴い、空き店舗が増加するなど中心部

	の空洞化が進行した。 新発田市では、中心市街地のにぎわいを取り戻すため、まず、「まちの輪郭づくり」として、「駅前広場整備」や「駅前公園整備」など、新発田駅前を中心に都市基盤が行われ、続いて、「まちの目鼻立ち」として目（アイネスしばた）、鼻（ヨリネスしばた）、口（イクネスしばた）の整備が行われた。 防災機能公園の「アイネスしばた」、市庁舎がある「ヨリネスしばた」、駅前複合施設の「イクネスしばた」など、「まちの目鼻立ち」としてにぎわいの核となる拠点の整備から、現在は仕上げとなる「まちの表情づくり」に取り組んでいる。官民連携を推進し、住み心地・居心地のよいまちとなるよう、歴史資源を生かした空間づくりを行い、「新しき魅力と古き魅力が織りなすまちづくり」の整備を進めている。 また、令和4年度には市街地総合再生基本計画（計画期間R5年～R14年）を策定し、民間事業者の空き店舗対策等のソフト事業や市街地再開発事業等のハード事業を実施する際に支援する体制を整えることにより、定住・交流人口の増加を図り、人が行き交い、にぎわいあふれるまちづくりを押し進めている。 （所感） まちの状況を考え、人が集える施設などを建設して対応していた。方針を出し、方向性を考え進んではいるが、新たな大型商業施設を利用する人が多く、商店街の復興なり、空き店舗の減少を考える対策もしていたが結果、空洞化が止まらない状況である。にぎわいをどこに求めるのかを検討したいとあったが、ここにおいては、笠岡市の駅前商店街も共通の課題であった。 大型商業施設が出来たエリアにはにぎわいがあるが、駅前周辺は衰退しており、笠岡としても同じ問題になるであろうと感じた。 全体的に、整備の範囲をもう少しコンパクトに集約するべきであり、笠岡に置き換えても同様のものであると感じ、まちづくりとしても良い事例であった。
	○笠岡市議会 大山副委員長 あいさつ
	○議場見学
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺

【2】 新潟県見附市 見附市議会

住 所	新潟県見附市昭和町二丁目1番1号
電 話	0258-62-1700
視察案件	スマートウェルネスについて
期 日	令和6年10月23日（水）10時00分から11時30分
応 対 者	見附市議会 議長 佐野統康 氏

	見附市議会 総務文教委員長 大坪正幸 氏 議会事務局議事調査係 主任 本田陽子 氏 企画調整課総合政策室 係長 姉崎晋悟 氏
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	見附市役所
概 要	○見附市議会 佐野議長 あいさつ
	○笠岡市議会 桑田委員長 あいさつ
概 要	○スマートウエルネスについて 見附市は新潟県中央部に位置し、人口約38,000人、面積77.91km²で新潟県内で面積が最も小さい市である。 見附市では、超少子高齢・人口減少社会によって生じる様々な課題を自治体が自ら克服するため、身体面の健康だけではなく、市民が生きがいを感じ、安全で豊かな生活を送れるように「食生活」、「運動」、「生きがい」、「健（検）診」のいきいき健康づくり4本柱を基本としたまちづくりの実現に取り組んでいる。 また、これまでの健康施策4本柱の視点による健康づくり事業への参加を呼びかけることに加え、健康に対しての関心が薄い市民でも健康になれるようなハード整備や仕組みづくりなどを通じて総合的に「住んでいるだけで健幸になれるまち」を目指している。 これまでの健康施策 4本柱 + まちづくり全体の要素 ①健康になれるまち（道路、公園、景観、交通） ②地域が元気（経済活動、産業育成、交流） ③環境にやさしいまち（ごみの減量化、新・省エネルギー） ④健幸を理解し行動（教育、啓発） ⇒ まち全体の「健幸」SWC（Smart Wellness City）施策へ □SWC施策を進める6つのポイント ①社会参加（外出）できる場づくり ②中心市街地を中核としたにぎわいづくり ③歩きたくなる快適な歩行空間の整備 ④特徴的な取組 地域コミュニティの構築と協働のまちづくり ⑤過度な車依存の脱却を可能とする公共交通の再整備 ⑥SWC推進のカギは人材 これまでの取組の結果、見附市の介護認定率は全国、新潟県平均よりも低い数値で推移しており、医療費（後期高齢・国保）や65歳以上の第1号介護給付費についても抑制されている。

	平成29年国土交通省のコンパクトシティ大賞，平成30年先進的なまちづくりシティコンペ受賞，令和元年SDGs未来都市に選定された。 (所感) 目標をコンパクトにまとめるまちづくりの推進に絞り，まちづくりを進めている。各課との連携を生かし当初事業をしっかり進め，成果を出している。 同規模自治体や同様の課題について好事例だと感じた。 健康を通じてまちの活性化や高齢者や妊産婦などの交流も進めている。 コミュニティでの交通手段，運行バスやコミュニティバス運行など，高齢者や地域の交通手段においてもより良い事例であると感じる。 各課でどのような交付金があり，どのように申請し活用するのかということについても，国へ派遣した職員の経験が十分に活用されている。笠岡市としても利用できる交付金などまだまだあるように感じられ，しっかり県・国の事業内容を精査・検討をするべきである。 同規模ということもあるが，今後も注視していきたい市である。
	○笠岡市議会 大山副委員長 あいさつ
	○健康運動教室（ネーブルみつけ）見学
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺

【3】 新潟県 新潟市議会

住 所	新潟県新潟市中央区学校町通1番町602-1
電 話	025-226-3385
視察案件	「にいがた2km」における道路空間利活用について
期 日	令和6年10月24日（木） 9時30分 から11時00分
応 対 者	議会事務局 事務局長 塚原 進 氏 都市政策部 係長 剣持幹直 氏 都市政策部 主査 寺澤 昂太 氏
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	新潟市役所
概 要	○新潟市議会事務局 塚原事務局長 あいさつ
	○笠岡市議会 桑田委員長 あいさつ
	新潟市は日本海側のほぼ中央に位置し，人口は約76万人，面積は726.19㎢を有し，新潟県全体の5.8%を占めている。 新潟市では市の中心部に位置する，新潟駅，万代，古町を結ぶ都心軸が約2キロメートルであることから，新潟のまちづくりをより身近に感じてもらい，ワクワク感や期待感につなげていきたいという思いを込め，その都心軸を「新潟2km」と名付け，「経済・産業の発展を牽引する成長エンジン」とするための取組を進めている。

－令和6年度 新潟2km関連 主な事業－

I ビジネスを創り出すまち

- 新潟県域でのビジネス展開と雇用を拡大させるため、にいがた2kmで進むビルの建替とあわせた戦略的な企業誘致によって民間投資を促進する。

(主な取組) ◆再開発事業などによる老朽化した建築物の更新の促進
◆県と連携した企業誘致の推進
◆にいがた2kmのまちづくりビジョンの積極的な発進

II にぎわいを創り出すまち

- 新潟2kmが、コンベンション機能や宿泊業、飲食サービス業、小売業の日本海側最大の集積地である強みを生かし、国内外の多くの人々から訪れてもらうことで、新潟圏域での消費を拡大させる。

(主な取組) ◆佐渡と連携した誘客の推進
◆食をツールとした誘客の推進
◆新潟×佐渡マラソンシナジー
◆マンガ・アニメ情報館・マンガの家
◆にいがた2km食花マルシェの開催

III 新たな価値を創り出すまち

- 国内外と広くつながる企業群や新進IT企業等が集積するにいがた2kmの強みを生かし、各区の魅力が詰まった新しい製品やサービス、売り方を創出します。

(主な取組) ◆区の魅力的なモノ・コトをオープンイノベーションで事業化
◆にいがた2kmの魅力創造や区との連携促進事業を支援

- にいがた2kmを舞台に、次代を担う人材がつながり合うことで、まちに新たな価値を生み出し、我がまちへの誇りと愛着を育む。

(主な取組) ◆多様なつながりを創る「(仮称)にいがた2km学校」の開校
◆地域の潜在資源を活用したリノベーションまちづくりの推進

道路空間の利活用においては、居心地のよい滞在空間の創出とともに、多様な交通手段による回遊性の向上を図っており、人に優しく歩いて楽しいウォーカブルな空間づくりへの期待が高まっている。

「にいがた2km」の玄関口である新潟駅前の東大通では、新潟駅周辺のリニューアルを迎え、沿道建物の建て替えが進む中、令和5年に策定した新潟駅・万代地区周辺将来ビジョンの実現に向け、エリアの魅力や価値を高めるための道路空間利活用に係る社会実験として、公民連携による「東大通みち

「ばたリビング」が行われた。

社会実験期間中は、東大通の将来の姿をイメージした道路空間を再現するため、ベンチやカフェ、近距離移動に便利なシェアサイクルポートなどを設置し、公民連携による多様な道路空間利活用を実施しながらマネジメント手法を探るとともに、車線減少時の自動車や自転車、歩行者への影響についても調査を行い、持続可能な道路空間利活用の仕組みづくりを進めている。

(所感)

公民連携の道路空間利活用の社会実験として、メインストリートを活用することで出店者にもメリットを感じられるようなイベントになっており、新たな客層との接点を生み出している。

継続的なイベントになっているので、一辺倒の事業ではなく改善をしながらのイベントになっており、良い事例ではと考える。

イベントの仕方など大変勉強になった。大きな市であるが、ここでも職員間の連携がしっかりとれているように感じた。駅周辺の整備がまだ完成には至っていないが、やはり駅周辺の整備があつてこそそのまちづくりではある。

市役所周辺（県庁周辺）と駅前でのまちづくりを分けた方がよいのではないかと感じた。

人口減少はどここのまちも同様の課題である。企業誘致は必要であるが、働きたいと思える職種を考えるという点は検討が必要である。

○議場見学

添付書類

視察資料 視察状況写真 名刺